

試験研究成果普及情報

部門	経営	対象	普及
課題名：規模階層別にみた養豚経営の経営管理			
[要約] 飼養頭数規模の拡大に従い従事労働1人当たりの豚管理頭数は増加し、豚生産の管理方式はシステム化・マニュアル化が進むとともに、経営管理の重点は生産管理から肉豚の販売管理に移行し、販売管理が重要な経営戦略と位置付けられている。また、借入金依存の財務体質で、自己資本の蓄積が低位である。			
キーワード (専門区分) 経営 (研究対象) 家畜類一豚 (フリーキーワード) 養豚、飼養頭数規模、経営管理			
実施機関名 (主 査) 畜産センター 経営研究室 (協力機関) (実施期間) 1995年度 ～ 1999年度			

[目的及び背景]

企業化が進んだ養豚経営では、従来にも増して実践的で合理的な経営管理手法の導入を図り、経営規模に対応した経営管理体制を確立することが重要な課題となっている。

そこで、高水準の生産性及び収益性を確保するための企業的養豚経営における経営管理内容の実態と特徴を明らかにした。

[成果内容]

1. 農家の経営概況

(1) 調査事例16戸のうち法人化している経営は9事例で、家族労働力は2～3人という経営が多い。経営内における経営主の役割は、飼養規模が拡大するに従って家畜の管理を主とする段階から経営の総合管理が主体となる。

(2) 常時雇用労働は、母豚頭数が200頭以上飼養の経営からみられ、家族労働力に常時雇用労働力を加えた1人当たりの豚飼養管理頭数は、規模拡大とともに増加している。

2. 生産管理

生産の基本となる豚管理の方式は、管理頭数をグループ化することにより生産過程を単純化し作業効率の向上が図られている。一群を構成する頭数は、養豚場の飼養頭数規模や豚舎施設の整備状況により相異がみられる。また、飼養規模が大きい経営ほど生産管理に関するシステム化・マニュアル化が進んでいる。

3. 販売管理

(1) 199頭以下層では、系統出荷だけという経営は2戸で、それ以上の階層になると、商系への出荷が増加し、また取引先も1業者に集中させずに複数の業者と取引することにより、業者間での販売価格や条件を比較検討するようになり、販売管理の優劣が経営成績を左右する要因となっている。

(2) 肉豚出荷時の目安では、各階層とも上物として格付けされる範囲の成体重を、出荷後の評価項目では、各階層とも上物率、枝肉重量、落ち幅をあげる農家が多い。

4. 財務管理

急速な規模拡大を行っている経営では、流動比率は適正であっても自己資本構成率、当座比率が極端に低くなっており、借入金の返済や運転資金の手当てに苦しい状況が伺われ、安定性を欠いた経営となっている。また、流動資産構成

率、流動資産対固定資産比率は規模拡大により低下する傾向がみられる。

[留意事項]

[普及対象地域]

県下全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

(表1) 調査農家の概要

母豚飼養規模	～199	200～399	400～
農家戸数 (戸)	5	6	5
家族労働力 (人)	3.0	2.2	2.8
雇用労働力 (人)	0	2.2	5.0
母豚平均頭数 (頭)	113.8	321.5	536.8
肉豚平均頭数 (頭)	1,143.0	2,978.7	5,025.2
1人当たり管理頭数 (頭)	161～990	678～1,654	630～834

表2 繁殖豚の管理

母豚飼養規模	個体成績の把握	交配方法	個体管理の方式	繁殖豚の導入・更新基準
～199頭	母豚台帳で整理 3戸 パソコンで整理 2戸	自然交配 3戸	・4頭(80頭規模)、7頭(母豚 150頭)頭を一群に種付け→分娩 のローテーション	・8年間更新無し(母豚1 50頭) ・年間60頭導入(母豚1 50頭)
		併用2戸	・月40頭種付け(母豚150頭) ・月20頭種付け(母豚100頭)	・産歴6～7産を基準に導 入(母豚 150頭)
200～399頭	母豚台帳で整理 4戸 パソコンで整理 2戸	自然交配 3戸 人工授精 1戸 併用2戸	・8頭(母豚330頭)、10頭(母 豚240、286、399頭)、1 8頭(母豚370頭)を一群にして、 種付け→分娩のローテーション ・週1回18頭を集中して離乳(母 豚370頭)	・母豚自家育成(4戸) ・年間120頭を導入更新 (母豚370頭) ・泌乳能力、離乳頭数、体 重により更新(母豚240 頭) ・純粋種を定期的に導入 (2戸)
400頭～	母豚台帳で整理 3戸 パソコンで整理 2戸	自然交配 3戸 併用2戸	・5頭(母豚410頭)、10頭(母 豚500頭)、10～12頭(母豚 760頭)、16頭(母豚	・年間計画的に更新し定期 的に導入(母豚600頭) (母豚は3年、雄
			600頭)、17頭(母豚400頭) を一群に、種付け→分娩のローテ ーション ・週2回12～13頭を集中して離 乳(母豚7 60頭)	豚は2年更新)、 ・月15頭、年間140頭 (母豚49頭) ・180頭(母豚410 頭)を契約 導入 ・母豚自家育成(1戸)

表3 肉豚の販売管理

母豚飼養規模	出荷先	出荷時の目安	出荷した肉豚のチェックポイント
~199頭	系統 2戸	(1)体重 5戸 (108~115kg)	(1)上物率 (2戸) (2)落ち幅 (3戸) (3)枝肉重量 (2戸)
	商系2 商+系 1	(2)体重と日齢 2戸 (160~190日)	(4)枝肉の性状 (1戸) (5)枝肉重量のバラツキ (1戸) (6)手取り指数 1戸
200~399頭	商+直売 1戸	(1)生体重5戸 (110~113kg)	(1)枝肉重量 (3戸) (2)落ち幅 (4戸) (3)上物率 (1戸) (4)枝肉の性状 (3戸) (5)手取り金額 (1戸)
	商系 4 商+系 1	(2)体重と日齢 1戸	(6)格付け状況 (1戸) (7)内蔵の状態 (1戸)
400頭~	商系 2戸	(1)生体重 4戸 (110~115kg)	(1)枝肉重量 (4戸) (2)落ち幅 (5戸) (3)上物率 (5戸) (4)枝肉の性状 (1戸) (5)手取り指数 (2戸)
	商+系 1		
	商+直売2	(2)生体重と日齢 1戸	(6)枝肉重量のバラツキ (1戸) (7)脂肪の質 (1戸)
	直売 1		

表4 規模拡大前後の投資金額・収支

区分	~199頭 (3戸)		200~399頭 (5戸)		400頭~ (3戸)	
	拡大前	拡大後	拡大前	拡大後	拡大前	拡大後
母豚頭数の変遷 (頭)	40~86	80~100	90~200	250~399	270~500	500~760
当期純利益 (千円)	▲1,776~9,062	3,988~12,510	▲125~7,287	2,118~14,948	▲13,389~29,140	▲11,578~35,805
肉豚1頭販売単価 (円)	28,889~30,064	31,617~31,756	29,896~34,065	30,180~34,171	22,082~34,447	28,462~31,469
肉豚1頭生産費 (円)	25,321~30,235	24,386~26,217	27,826~33,571	27,104~31,352	24,339~37,191	29,941~35,370
母豚1頭飼育費 (円)	24,802~35,570	30,353~45,236	28,899~68,233	33,629~65,324	7,974~56,875	23,363~79,464
投資金額 (千円)	—	—	—	182,388~390,640	—	160,575~543,954
母豚1頭投資金額 (円)	47,244~98,148	—	—	637,724~979,047	—	211,283~902,080
	555,812~917,288	—	—	—	—	—

表5 規模拡大時における安全性の推移

区分	(6)		(8)		(9)	
	拡大前	拡大後	拡大前	拡大後	拡大前	拡大後
流動資産構成率	56.3	37.9	33.3	32.7	74.8	57.7
固定資産構成率	43.7	62.1	66.7	67.3	25.2	42.3
流動資産対固定資産比率	128.9	60.9	49.9	48.5	296.8	136.4
流動負債構成率	13.2	18.9	36.6	17.7	87.7	41.4
固定負債構成率	86.3	80.4	65.9	84.2	0.0	32.5
自己資本構成率	0.5	0.7	▲2.4	▲1.9	12.3	26.0
流動比率	425.5	200.4	91.1	185.0	85.3	139.2
当座比率	373.0	17.5	30.2	19.9	22.6	46.7
固定比率	0.4	1.1	▲3.6	▲2.8	49.0	61.6
長期資本対固定資産比率	199.0	130.9	99.7	126.0	41.8	87.5

[発表及び関連文献]

平成12年度試験研究成果発表会—経営経済— 2001年

新井 肇（1988）：「畜産経営の課題と経営管理機能」『農業経営研究』第26巻第2号

新井 肇（1983）：「畜産経営と経営管理問題」『農業経営の構造的再編』、明文書房

斉藤 潔（1986）：「企業的農業経営における経営管理と環境適応—大規模養豚経営を事例として—」『農業経営研究』第24巻第2号

新井 肇（1979）：『養豚の経営管理』、中央畜産会

新井 肇（1974）：『やさしい経営診断』、全国農業会議所